

## 話し合う力とは？

自分の考えをしっかりと表現できるようになるには、人に分かってもらえるだけの説明力や表現力を身に付ける必要があると言われていています。そのことは当然すぎることであり、まずは各個人が自分の意図を相手に伝えることのできる力を付けてやりたいと思います。そこには個人差があったり、学年が進むと羞恥心が増してきたりして、思うように力を付けてやれないということも感じます。

よしんば、個々の表現力がだいぶ付いてきたという手応えを感じていたとしても、そこから「話し合い」や「練り合い」までに高めていこうとすれば、さらに大きな壁があるような気がします。「話し合い」を成立させるためには、個々の表現力とともに、「受け止めて、さらにそれに応じる力」がなければならないと思っています。集団全体に友達の考えや思いを聞こうとしたり、受け止めようとする温かい雰囲気をもっていたりすることはもちろんですが、その上に立って、受け止めた友達の考えを自分なりに咀嚼して、相手に返す、関わる力がなければならないと思います。平たく言えば、友達の考えを自分はどう感じ、どう思うかを表明するということです。

そういう観点からすれば、小学校段階では、真の話し合いや練り合いを見ることは難しいことなのかもしれません。活発に意見が出ているように見えるが、その実、単に自分のノートに書いてある考えを読んで発言したことで満足している段階もあれば、もう1歩進んで、互いの意見に関わっているように見えるが、「付け足し」とか「同じ意見」と言って自分の考えを重ねている段階のものもあります。それが悪いと批判しているわけではありません。また、一足飛びに話し合いや練り合いに進んでほしいと願っているわけでもありません。指導者として保護者として、私たちが自覚しておかなければならないのは、今、我が学級、我が子はどの段階にあり、次にはどこまでのことを要求していくのかという把握や見極めが必要だということです。それが十分でないうちは、大人の方で「問い返す」「つなぐ」「焦点化する」などの作業を肩代わりしてやらなければなりません。やがては「話し合い」が可能となるように、今はこんな力を付けてやりたいと意識しながら、毎日の学習や活動を組織していかなければならないと思っています。

さて、いよいよ暑い夏ともお別れの時期であるかな(?)と期待しつつ、じっくり落ち着いて話し合える季節を迎えようとしています。この2学期には、子供たちに自分を表すことの大切さや意義を考えることのできる大切な時間にしてほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。2学期もよろしくお願ひします。(校長 村杉 一也)